



平成26年2月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年4月14日

上場会社名	松竹 株式会社	上場取引所	東 札 福
コード番号	9601	URL	http://www.shochiku.co.jp
代表者（役職名）	代表取締役社長（氏名） 迫本 淳一	TEL	03-5550-1699
問合せ先責任者（役職名）	取締役（氏名） 井手 良樹	配当支払開始予定日	平成26年5月28日
定時株主総会開催予定日	平成26年5月27日		
有価証券報告書提出予定日	平成26年5月28日		
決算補足説明資料作成の有無	無		
決算説明会開催の有無	無		

（百万円未満切捨て）

1. 平成26年2月期の連結業績（平成25年3月1日～平成26年2月28日）

（1）連結経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期	88,937	13.2	8,604	180.5	6,498	324.6	2,052	104.9
25年2月期	78,600	3.9	3,067	250.8	1,530	—	1,001	—

（注）包括利益 26年2月期 3,639百万円（52.2%） 25年2月期 2,392百万円（—%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年2月期	14.93	—	3.0	3.2	9.7
25年2月期	7.29	—	1.5	0.8	3.9

（参考）持分法投資損益 26年2月期 △21百万円 25年2月期 △16百万円

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期	203,742	69,517	34.1	505.32
25年2月期	203,026	66,240	32.6	481.92

（参考）自己資本 26年2月期 69,470百万円 25年2月期 66,200百万円

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年2月期	14,923	△8,550	△6,784	19,769
25年2月期	7,939	△21,050	21,772	20,181

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
25年2月期	—	0.00	—	3.00	3.00	414	41.1	0.6
26年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00	553	26.8	0.8
27年2月期(予想)	—	0.00	—	3.00	3.00		24.0	

（注）26年2月期期末配当金の内訳 特別配当 1円00銭

3. 平成27年2月期の連結業績予想（平成26年3月1日～平成27年2月28日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	44,450	△4.0	2,270	△59.1	1,560	△66.7	750	△74.6	5.46
通期	88,140	△0.9	4,640	△46.1	3,350	△48.5	1,720	△16.2	12.52

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
 新規 - 社（社名）、除外 - 社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 有
- ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年2月期	139,378,578株	25年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	26年2月期	1,899,920株	25年2月期	2,009,855株
③ 期中平均株式数	26年2月期	137,424,079株	25年2月期	137,380,313株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成26年2月期の個別業績（平成25年3月1日～平成26年2月28日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期	53,299	31.2	5,248	-	4,985	648.1	1,572	161.7
25年2月期	40,625	△1.6	388	△13.3	666	27.5	600	-

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期	11.37	-
25年2月期	4.34	-

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期	135,906	71,064	52.3	509.87
25年2月期	126,947	68,408	53.9	490.81

(参考) 自己資本 26年2月期 71,064百万円 25年2月期 68,408百万円

2. 平成27年2月期の個別業績予想（平成26年3月1日～平成27年2月28日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	26,770	△2.5	1,000	△68.9	600	△70.4	4.34
通期	55,280	3.7	2,480	△50.3	1,460	△7.1	10.56

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績（1）経営成績に関する分析（次期の見通し）」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
(4) 事業等のリスク	6
2. 企業集団の状況	8
3. 経営方針	9
(1) 会社の経営の基本方針	9
(2) 目標とする経営指標	9
(3) 中長期的な会社の経営戦略及び会社の対処すべき課題	9
4. 連結財務諸表	10
(1) 連結貸借対照表	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	15
(3) 連結株主資本等変動計算書	16
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	18
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	20
(継続企業の前提に関する注記)	20
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	20
(会計方針の変更)	22
(連結貸借対照表関係)	23
(連結損益計算書関係)	24
(連結包括利益計算書関係)	25
(連結株主資本等変動計算書関係)	26
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	28
(セグメント情報等)	29
(1株当たり情報)	33
(重要な後発事象)	33
(開示の省略)	33
5. 個別財務諸表	34
(1) 貸借対照表	34
(2) 損益計算書	37
(3) 株主資本等変動計算書	39
(4) 個別財務諸表に関する注記事項	41
(継続企業の前提に関する注記)	41
6. その他	41
(1) 役員の異動	41

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

(当期の経営成績)

当連結会計年度におけるわが国の経済は、輸出の持ち直し、公共投資の増加、雇用・所得環境の改善等により緩やかに景気回復に向かう一方、新興国・資源国の動向や欧州の財政問題、米国経済の回復ペース等がリスク要因となり、依然不透明な状況のまま推移しました。

映画業界は、興行収入1,942億3,700万円（前年比99.5%）、入場人員1億5,588万8千人（前年比100.5%）となりました。邦画・洋画の構成比は邦画が60.6%、洋画が39.4%となり、前年より洋画のシェアが若干回復しました。全国のスクリーン数は3,318スクリーンで前年より28スクリーン増えました。

演劇業界は、平成25年4月に新開場した歌舞伎座の柿葺落興行が盛況で、他の歌舞伎興行も好調に推移した一方、演劇興行全体では依然としてお客様が公演を選別しており、厳しい状況が続きました。

不動産業界は、賃貸オフィスビル市場にて、大型物件の供給が少なかったこと、成長企業の拡張や集約移転を目的としたオフィス需要が増加したことにより、空室率は緩やかに低下し、賃料下落傾向からの回復が見られました。

このような状況下、当企業グループ（当社及び当社の関係会社、以下は同じ）はより一層の経営の効率化を図るとともに、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当連結会計年度は、売上高88,937百万円（前連結会計年度比13.2%増）、営業利益8,604百万円（同180.5%増）、経常利益6,498百万円（同324.6%増）となり、特別損失3,112百万円を計上し、当期純利益は2,052百万円（同104.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

【映像関連事業】

配給は、邦画12本、洋画3本、アニメ3本、シネマ歌舞伎、METライブビューイングとバラエティに富んだ作品を公開しました。上期は、春休みに公開した「ひまわりと子犬の7日間」等が厳しい結果となりましたが、若年層の強い支持を得た「クロユリ団地」、シニア層に支持された歴史大作「終戦のエンペラー」がヒットしました。下期に入って期待に届かなかった作品もありましたが、山田洋次監督作品の「小さいうち」は2月に第64回ベルリン国際映画祭にて最優秀女優賞（銀熊賞）を受賞する等、多くの話題を集めました。

興行は、連結子会社の㈱松竹マルチプレックスシアターズは、邦画、洋画、アニメ、ODSを合わせて331本の作品を上映しました。その他、ライブビューイング、イベント上映等、幅広いラインナップの興行を行いました。

テレビ制作は、シリーズ企画「だましゑ歌麿Ⅲ」「天才刑事 野呂盆六Ⅷ」、北大路欣也主演「剣客商売～剣の誓約～」、木下恵介 生誕100年プロジェクト「二十四の瞳」、CS時代劇「鬼平外伝老盗流転」、BS連続時代劇「雲霧仁左衛門」、テレビ東京開局50周年特別企画の新春ワイド時代劇「影武者徳川家康」等を受注制作しました。テレビ映画の二次利用販売は、BS、CS放送局への販売が当期も順調に推移し、「必殺」シリーズの権利販売も収益に貢献しました。

映像ソフトは、「大奥～永遠～〔右衛門佐・綱吉篇〕」「東京家族」「舟を編む」「終戦のエンペラー」、その他、小津安二郎生誕110年を記念したニューデジタルリマスター「東京物語」、中村勘三郎一周忌追悼企画としてシネマ歌舞伎6作品等を発売しました。

テレビ放映権販売では、「東京家族」「釣りバカ日誌20ファイナル」「釣りバカ日誌16」が地上波のゴールデンタイムに放送され、「男はつらいよ」が5月にWOWOWで特別篇を含む全48作品49本、10月からはBSジャパンにて毎週土曜日に全作放送が始まりました。NHK BSではザ・ドリフターズの映画3本等が放送されました。配信に関する許諾は、「東京家族」「終戦のエンペラー」等の大作の他、小津安二郎生誕110年を記念して、iTunesやGyao!で監督の特集を組む等、周年事業の一貫としてライブラリーの活性化を行いました。

CS放送事業は、平成25年10月1日に㈱衛星劇場から社名を変更した連結子会社の松竹ブロードキャスティング㈱は、映画、舞台、ドラマ等の番組編成を強化すると共に、歌舞伎座新開場に合わせたプロモーションやホームドラマチャンネル15周年キャンペーン等の施策により、契約者数を伸ばしました。

この結果、売上高は45,123百万円（前年同期比3.4%減）、セグメント利益は322百万円（同77.9%減）となりました。

【演劇事業】

歌舞伎座は、4月の新開場に先立って行われた歌舞伎俳優によるパレード「GINZA 花道」や開場式等で世間の注目を集めるなか、一年間に亘る柿葺落興行が始まりました。当代最高の俳優たちによる豪華な舞台がお客様を魅了し、大盛況となりました。4～6月の3ヶ月は三部制興行で賑やかに行われ、7月からは若手花形俳優中心の舞台が評判を呼びました。秋以降も新作歌舞伎「陰陽師」の上演が大盛況となり、「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」等の古典作品の連続上演が人気を集め、開場以来の活況を呈しました。

新橋演舞場は、歌舞伎座の新開場に伴い、本来の一般演劇中心の劇場に戻り、「滝沢演舞城2013」や藤山直美主演「さくら橋」等が評判を呼びました。秋以降は、中村獅童主演「大和三銃士」、山田洋次監督の演出による中村勘九郎主演「さらば八月の大地」等、意欲作の上演が続き話題を集めました。

大阪松竹座は、恒例になりました「七月大歌舞伎」、片岡愛之助を中心とした花形俳優が奮闘した「十月花形歌舞伎」、1月の「坂東玉三郎初春特別舞踊公演」では華麗な舞踊が人気を博し収益に貢献しました。春、夏、冬に上演の関西ジャニーズJr.公演は安定した収益を上げました。織田作之助生誕100年を記念した「ザ・オダサク」、9月は大地真央主演のラブコメディ「40カラット」を上演しました。また、11月の劇団創立65周年記念「松竹新喜劇特別公演」では、藤山寛美の孫の藤山扇治郎が新加入し話題を集めました。

南座は、「五月花形歌舞伎」では市川海老蔵による復活狂言の「鎌髭」、早替り、宙乗りの「伊達の十役」が好評を博し、10月の「アマテラス」では坂東玉三郎と太鼓芸能集団鼓童の共演が話題を集めました。「吉例顔見世興行」では二代目市川猿翁、四代目市川猿之助、九代目市川中車襲名披露興行が盛況に推移し高稼働しました。7月は山田洋次監督が脚本、演出を担った「東京物語」、9月の「香華」も堅調な数字を残しました。また、春、秋に開催した「歌舞伎ミュージアム」では、舞台機構をお客様に実体験していただく趣向で歌舞伎の裾野を広げました。

その他の公演は、日生劇場では、4月に創立90周年となるOSK日本歌劇団の記念公演「レビュー春のおどり～桜咲く国」、池畑慎之介☆、水谷八重子による「ドラマティックステージ」、さらに五木ひろしコンサートと続きバラエティ豊かな一ヶ月となりました。また9月には、関西ジャニーズJr.による「ANOTHER」が大盛況となりました。閉館前のル テアトル銀座では、市川海老蔵を中心に「三月花形歌舞伎」を行い盛況となりました。三越劇場では、「新釈金色夜叉」「明治一代女」を上演し、高評価を受けました。サンシャイン劇場では、つかこうへい作品の「熱海殺人事件」を錦織一清演出により上演し、盛況となりました。浅草公会堂では、市川猿之助を中心に「新春浅草歌舞伎」を開催しました。

巡業公演は、「第二十九回四国こんびら歌舞伎大芝居」と公文協東コースにて四代目市川猿之助襲名披露興行、公文協中央コース及び西コースは三代目中村又五郎・四代目中村歌昇襲名興行を行い好評を博しました。

受託制作では、二代目市川猿翁、四代目市川猿之助、九代目市川中車の襲名披露興行「御名残御園座三月大歌舞伎」、中村獅童を中心に「明治座十一月花形歌舞伎」を製作しました。坂東玉三郎主演「アマテラス」は7月に赤坂ACTシアター、9月に博多座で公演を行いました。

シネマ歌舞伎は、歌舞伎座新開場により「歌舞伎」に対する関心度が増したことから、過去に公開した作品の再上映（月イチ歌舞伎）や第四期歌舞伎座の舞台収録映像を利用したシリーズ（シネマ歌舞伎クラシック）も全国的に人気を呼びました。さらに12月に「歌舞伎座新開場柿葺落大歌舞伎」DVD・ブルーレイBOOK（全3巻）を全国有名書店で発売し、好評を博しました。METライブビューイングは、「リゴレット」「パルシファル」「ファルスタッフ」等の新作の他、過去に公開した作品のアンコール上映を行い好評を得ました。

歌舞伎座ギャラリーは、4月に歌舞伎座タワー5階に伝統文化の普及・世界への発信を目的とした文化施設をオープンし、開場以来多くの来場者を集めました。

この結果、売上高は29,470百万円（前年同期比47.5%増）、セグメント利益は6,832百万円（前年同期はセグメント利益262百万円）となりました。

【不動産事業】

不動産賃貸は、東劇ビル、築地松竹ビル、新宿松竹会館、大船ショッピングセンター、新木場倉庫、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビルが順調に推移し、安定収入に貢献しました。各ビルとも効率的運営、経費削減に努め、計画通りの利益を確保しました。なお、一部のビルでは厳しい賃料減額要求等があり、交渉の継続と新たなテナント誘致に努めました。歌舞伎座タワーのリーシングにつきましても、概ね満室稼働を達成しました。

この結果、売上高は8,973百万円（前年同期比30.4%増）、セグメント利益は3,451百万円（同5.9%減）となりました。

【その他】

プログラム・キャラクター商品は、コアファンを有するアニメ「劇場版銀魂 完結編 万事屋よ永遠なれ」「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章・第六章・第七章」「機動戦士ガンダムUC episode 6」「劇場版TIGER & BUNNY -The Rising-」等の売上が好調で収益に貢献しました。アニメ作品以外では「終戦のエンペラー」「舟を編む」等の自社配給作品に加え、「そして父になる」「100回泣くこと」等の売上が好調に推移しました。

イベント事業においても、「アルプスの少女ハイジ」のテレビ放映40周年を記念した展示物販イベントを関東、関西5か所で開催し、会場図録等の自社で開発したオリジナル商品も販売しました。また、東京駅一番街の「松竹歌舞伎屋本舗」は売上好調で、歌舞伎座タワー地下2階の「木挽町広場」へ出店した分店も高稼働し、収益に大きく貢献しました。

この結果、売上高は5,370百万円（前年同期比6.4%増）、セグメント利益は534百万円（同77.8%増）となりました。

（次期の見通し）

今後のわが国の経済は、輸出環境の改善や経済対策、金融対策の効果等を背景に次第に景気回復に向かうことが期待されますが、海外景気の下振れが引き続き景気を下押しするリスクとなっています。

当企業グループは、コンプライアンス経営の強化に取り組み、社会情勢に対応しつつ企業価値を高め、あらゆる世代のお客様に喜んでいただける映像・演劇コンテンツを創造して参ります。

映像関連事業につきましては、映画製作・配給は、独自の企画・製作力を高めるとともに、一本一本丁寧な営業・宣伝・販売活動に尽力し、お客様に喜ばれる作品を提供して参ります。主な作品では、NHK「あまちゃん」のヒロイン役で注目を集めた能年玲奈主演の「ホットロード」、宮部みゆき原作の巨編ミステリーを完全映画化した「ソロモンの偽証」前・後編二部作、ジョニー・デップ主演のSF大作「トランセンデンス」等の公開を予定しております。

演劇事業は、新開場から2年目を迎える歌舞伎座は、伝統的な演目は勿論、新作にも注力し若手中心の興行を織り交ぜながら話題の舞台を提供して参ります。新橋演舞場は、スーパー歌舞伎を継承、進化させたスーパー歌舞伎II（セカンド）「空ヲ刻ム者―若き仏師の物語―」等、魅力的な話題作を製作します。また、営業面におきましても歌舞伎座で法人向け年間シートを導入する等、新しい施策も含めて団体動員の拡充を進めて参ります。

シネマ歌舞伎は、新派にジャンルを拡大してグランドシネマと銘打った坂東玉三郎の「日本橋」を全国上映し、好評を博した「月イチ歌舞伎」の第2弾もスタートしております。METライブビューイングは、2014-15シーズンで10作品の上映を予定しております。

不動産事業は、所有不動産物件の満室稼働を目指し、業界の動向に関わる広範かつ確かな情報入手に注力し、積極的なテナントリーシングを続けて参ります。また、安心・安全なビル運営を心がけ、快適な環境作りや省エネにも努めるとともに、歌舞伎座タワーを含む所有不動産のスケールメリットを最大限に生かした経費削減と効率的運営のもと、安定収益確保に努めて参ります。

その他は、プログラム・キャラクター商品は、「THE NEXT GENERATION―パトレイバー―」「ホットロード」「機動戦士ガンダムUC episode 7―虹の彼方に―」「ソロモンの偽証」前・後編二部作、他社配給作品の「るろうに剣心」二部作等でおお客様の購買意欲を喚起する商品作りや販売展開を心がけて参ります。イベントプロモーションは、前年に立ち上げた「アルプスの少女ハイジ」の展示物販イベントの全国実施に加え、遊園地でのアトラクション受注等、企画・営業を強化して参ります。また、好調な歌舞伎商品に関しましては、新たな開発や販売拠点の拡大に注力して参ります。

このような状況を踏まえ、次期の連結業績の見通しといたしましては、売上高88,140百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益4,640百万円（前年同期比46.1%減）、経常利益3,350百万円（前年同期比48.5%減）、当期純利益1,720百万円（前年同期比16.2%減）を予定しております。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産合計は、前連結会計年度末に比べ716百万円増加し、203,742百万円となりました。これは主に有形固定資産が減少したものの、現金及び預金（責任財産限定対象）及び投資有価証券の増加等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,560百万円減少し、134,225百万円となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が増加したものの、長期借入金及び長期借入金（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,276百万円増加し、69,517百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

